

神奈川県立平塚支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

会議名称	令和8年度 第1回神奈川県立平塚支援学校 学校運営協議会
開催日時	令和8年6月10日(水) 午前9時30分～11時30分
開催場所	会議室②
出席者	<p>学校運営協議会委員(敬称略)</p> <p>伊藤甲之介、定成幸代、青木真純、石井育代、熊澤惇、久光陽一 大津彰子校長</p> <p>事務局</p> <p>磯崎景子副校長、佐藤庄一教頭、佐野緑哉事務長、三浦智子総括教諭、 石川樹理総括教諭、増田直子総括教諭、濱本拓実総括教諭</p>
会議資料	<p>開催要項、令和8年度学校経営方針、グランドデザイン、学校教育計画、 令和8年度学校運営協議会計画、令和7年度学校評価報告書(実施結果)、 説明用プレゼン資料</p>
会議の経過	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校長挨拶並びに職員紹介 2 令和8年度学校運営協議会委員紹介及び会長・会長選出 3 令和8年度学校運営協議会 開催計画(案)について 4 各部会の計画について <ol style="list-style-type: none"> (1) 「学校評価部会」の今年度の計画及び目標設定についての説明 <ol style="list-style-type: none"> ① 教育課程・学習指導について <ul style="list-style-type: none"> ▶ ICT機器の活用に係る目標の説明 ▶ 系統性・連続性のある教育活動に係る目標の説明 ② 生徒指導・支援について <ul style="list-style-type: none"> ▶ 人権を尊重した指導支援に係る目標の説明 ▶ アセスメントに係る目標の説明 ③ 進路指導・支援 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 社会参加に向けた必要なコミュニケーションの目標の説明 ▶ ライフステージに応じた進路指導・支援の目標の説明 ④ 地域等との協働 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 近隣施設との連携を深め、教育活動の充実を図る目標の説明 ▶ センターの機能に関する目標の説明 ⑤ 学校管理・学校運営 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 災害時の対応に関する目標の説明 ▶ 働き方改革に関する目標の説明 <p>【意見・質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標と手段が混在している。 ○ コミュニケーションの視点はよい。子どもが自身で選ぶため

会議の経過

の支援が必要であり、この先の教育・教員に必要なってくる。

- 学校運営方針を各教員に対し、どのようなプロセスでおろし、行動レベルとどのようにマッチングさせていくのか。

⇒ 方針をもとに、各学部・各分掌で年間目標を立て、それを受けて各教員が自己観察書で目標を立てていくことになる。その目標をもとに、管理職面接を行い、年度末に評価を行う。

- (2) 「切れ目ない支援部会」の今年度の計画及び花菜ガーデン・インクルーシブハブ湘南との連携や意義の説明

【意見・質問】

- インクルーシブハブ湘南では、支援が必要な子どもたちの学びの場として、ららぽーと平塚湘南で、無料で展示発表会のための会場を提供してもらおう等の活動を検討している。

- 企業と語ろうについて、オープンな場にし、さまざまな方を招いて開催できるとよい。

- 小学校で特別支援学校の教員から児童の対応について、アドバイスをいただいたことはありがたかった。

- 特別支援学校の地域での活躍に期待をしたい。

- 巡回相談は1回訪問して終了となるのか

⇒ 教育委員会に相談内容を挙げて、内容によって担当する学校を決める。ケースによって訪問回数は異なる。昨年度は13ケースであった。

- 金目小学校とのつながりはあるのか

⇒ 夏の研修にお誘いしたり、子どもたち同士の関わりの場を設けたりしている。

- (3) 「防災部会」の昨年度の取組の報告及び今年度の計画の説明

【意見・質問】

- 自力通学の生徒に対して、登下校中の発災時にいる地点で学校もしくは自宅のいずれかに向かうのかについて決めているが、実際に生徒が自身で判断して対応できるか心配である。

- 発災時、バス会社等の企業に生徒の支援を求めることも大切である。トップに伝えると話しが早い。

- 発災時の状況や時間帯に応じたシミュレーションが必要である。誰かに助けを求める手段はあるのか。

⇒ 普段持っているSOSカードを活用する方法もあるが、経験がないため実際に使えるかは分からない。

- 5 熟議「学校の教育活動について」

地域と学校双方にメリットがあるようにするためのアイデアご意見をお願いしたい。

【意見・質問】

- 社会に出た時を想定することは大切である。

会議の経過

- 人は発信をしないといけない。最近の学生は発信が苦手なようである。
- 地域の方が学校にお茶を飲みにくるようなゆるやかなつながり、子どもがやりたいことを地域がサポートする学校もある。
- 先生が好きなことを中心に、地域とつながる方法もある。
- 平塚支援学校は障害の実態幅が広く、インクルーシブを考えていける場である。発信をすることで街をよくしてもらいたい。
- 学校間交流をしたのちに児童に感想を聞くと「楽しかった」と答える。「楽しかった」だけでとどめず、目標を明確にする必要があることを職員と確認した。“ともに生きる”に通じることでもあるので、豊かな社会づくりにつながる教育をしたい。
- 安心できる場所、雰囲気は教育現場では重要なことである。話せない子どもでも思いはある。気持ちをよく聞いてほしい。
- インクルーシブハブ湘南での企画を学校に持ちかけるが、ずっと同じ学年など、やりたいという先生次第で決まってしまう。選手が学校に来る際は多くの子どもたちと関わられるようにしてもらいたい。

● 図書室ではなく廊下に本棚があるが、物足りない。充実した図書室のための協力をしたい。

⇒ 図書室はあるが、車いすでは入りにくい構造である。ゆっくり本を読める場所が作れていないのが現状である。ボランティアに本にカバーをつけてもらっている。

● 安心できる場所・雰囲気は教育現場では大切である。話せない子どもにも思いはある。そういった子どもの気持ちをよく聞いてほしい。社会では自身の気持ちを言えることが必要である。自分の気持ちを言える教育に重きをおいてほしい。

⇒ 話しができる子どもでも本心を伝えられない場合もある。嫌、うれしいが素直に言える関係性を作ることが必要である。機能的に話せない子どもは、周囲の教員が表情を読み取りながら対応しているが、それが合っているかは不明である。

● 市内4校で意見交換する場はあるのか。

⇒ オフィシャルなものはないが、共有する機会はある。

6 熟議「事故防止の工夫について」

個人情報の誤配付、けが等の事故を防止するためのアイデアがほしい。

【意見・質問】

- 事故防止のために同僚性は必要である。
- 整理整頓も効果がある。
- 個人情報等の対策重要度別に分けてもよい。
- 紙媒体の配付をやめている。学生ごとのチャットを入れるとき

会議の経過	<p>も室長ともう一人に対応するとともに、予約送信を活用している。サーバーに残るメールは送信していない。目が疲れてくる方は事故が起こりやすい。</p> <p>7 事務連絡・その他</p> <p>第2回学校運営協議会 令和8年11月16日（月）9時30分から</p> <p>第3回学校運営協議会 令和9年2月22日（月）9時30分から</p>
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------